

箸感謝まつり

当神社はその昔、伊勢神宮の神領地（御園）であった清洲城下の朝日郷にご鎮座されて、徳川家康公の正室となられた朝日姫（太閤殿下の妹様）の氏神様でもありました。

慶長十六年に、名古屋城築城に伴い、氏子共々現在地（お城の真南）に遷座され、城下町碁盤割りの総氏神として崇敬をあつめ、広小路通りの賑わいの中心地として、近年まで熱田神宮に次ぐ参拝者を数えておりました。

したがって、諸祭事も伊勢神宮に倣う処が多く、特に四大祭の神饌品には最初に「箸」をお供えし、次に盛飯・清酒・濁酒・角餅・魚などが伝供して、祭典が斎行されています。

「箸」は申すまでもなく、人みな生をうけ、物心ついて以来、五体の養いとして欠かせない役を努めて参りましたので、毎年八月四日の「はし」に因んで、箸に感謝すると共に、氏子皆様の商売繁盛をお祈り申し上げる神事であります。

錦・栄・東桜・大須の氏子区域はもとより、近隣の町の飲食業を営まれる方々にご賛同えて賑々しく執り行われます。